

平成22年10月28日公表

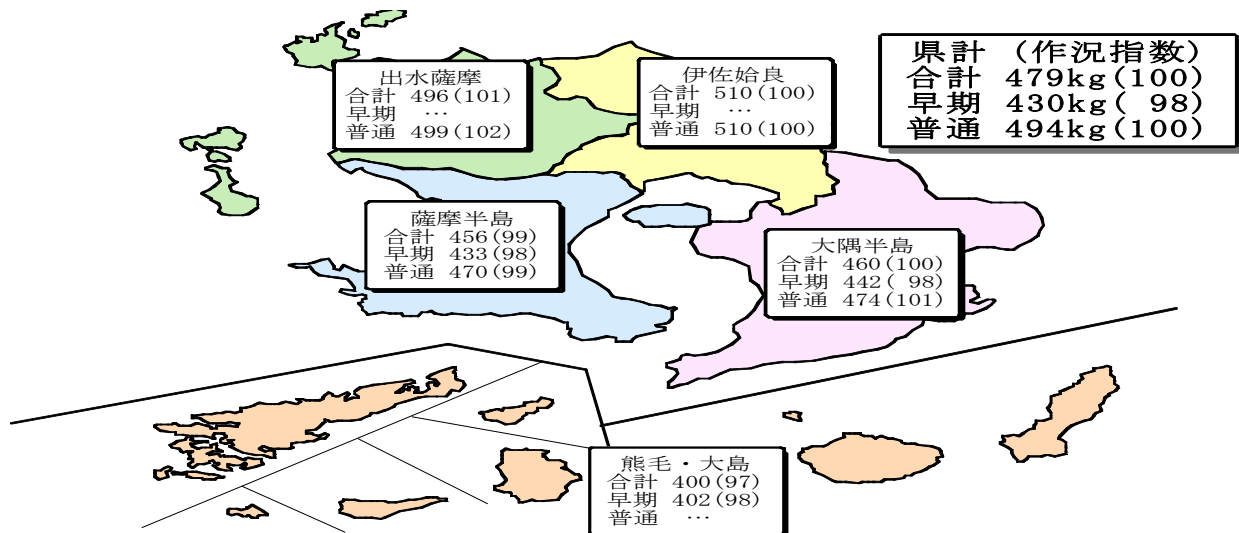
平成22年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）

— 普通栽培の10a当たり予想収量は494kg（作況指数100）の見込み —

【調査結果の概要】

- 1 鹿児島県における平成22年産水稻の作付面積（子実用）は2万4,800haで、前年産に比べて100ha増加しました。
うち、主食用作付見込面積は、2万4,400haが見込まれます。
- 2 10月15日現在における水稻の作柄は、早期栽培では、初期生育期の低温や日照不足から分けつが悪く、穂数が少ないことなどから、10a当たり収量は430kg（作況指数98）となり、普通栽培では、田植え後の日照不足から分けつが悪く、穂数が少なかったものの、出穂期以降天候に恵まれ、登熟が良好となったことから、10a当たり予想収量は494kg（作況指数100）が見込まれます。
- 3 以上の結果、予想収穫量（子実用）は11万8,800 tが見込まれます。
また、主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は11万6,900 tが見込まれます。

図 水稻の作柄表示地帯別10a当たり予想収量（10月15日現在）



- 作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積です。
- 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む）から、需給調整の取組として取り扱う米穀等（加工用米、新規需要米等）の面積を除いた面積（見込み）です。
- 作況指数とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり予想収量の比率です。
- この調査は、収穫を終えた地域では刈取り実測により行いましたが、一部収穫を終えていない地域ではのみ数、登熟状況等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行いました。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。

この資料は、九州農政局ホームページ鹿児島農政事務所サイトの「統計情報（鹿児島県）」でもご覧いただけます。

【「鹿児島農政事務所」 (<http://www.maff.go.jp/kyusyu/kagoshima/>)】

【 解 説 】

1 作付面積

平成22年産水稻の作付面積（子実用）は2万4,800haで、前年産に比べて100ha増加しました。これは、戸別所得補償モデルの開始により、新規需要米や加工用米が増加したためです。

なお、水稻作付面積（青刈り面積を含む）から、需給調整カウントとなる米穀等（加工用米、新規需要米等）の面積を除いた主食用作付見込面積は、2万4,400haが見込まれます。

2 水稻の作柄概況

(1) 早期栽培

全もみ数は、1穂当たりもみ数は平年並みに確保されたものの、穂数がやや少なかったことから、やや少なくなりました。

登熟(実入り)は、出穂期以降、曇雨天で経過したものの、7月中旬以降おおむね天候に恵まれたこと、全もみ数がやや少なかったことによる補償作用から、やや良となりました。

被害は、台風の襲来がなく、いもち病、紋枯れ病等の発生は少ないものの、初期生育期の低温や日照不足、一部地域でカメムシの吸汁加害が見られ、平年に比べやや多くなりました。

この結果、10a当たり収量は430kg（作況指数98）となりました。

(2) 普通栽培

全もみ数は、1穂当たりもみ数はやや多かったものの、穂数が少なかったことから、やや少なくなりました。

登熟は、出穂期以降9月下旬までは概ね天候に恵まれ、日照時間、気温日較差が確保されたことから、良が見込まれます。

被害は、初期生育期の日照不足や病虫害の発生はみられたものの、台風の影響がなく平年並みとなっています。

この結果、10a当たり予想収量は494kg（作況指数100）が見込まれます。

第1表 水稻の作付面積及び10a当たり予想収穫量

区 分	作付面積 (子実用) ①			10a当たり 予想収量 ②	予想収穫量 (子実用) ③=①×②				(参 考)			
	前年産との比較				主食用作付 見込面積 ④	予想収穫量 (主食用) ⑤=④×②	10a当たり 平年収量 ⑥	作 況 指 数 ⑦=②/⑥				
	対差	対比	対差						対比			
	ha	ha	%	kg	t	t	%	ha	t	kg		
水稻合計	24 800	100	100	479	118 800	△ 3 200	97	24 400	116 900	479	100	
早期栽培	5 890	90	102	430	25 300	△ 1 700	94	…	…	439	98	
普通栽培	18 900	0	100	494	93 400	△ 1 500	98	…	…	492	100	

注：1 数値は、ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合があります。

2 表中の「△」は、減少したものを示します。

3 表中の「…」は、事実不詳又は調査を欠くものを示します。

第2表 早期栽培における地帯別作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）

区 分	作付面積 (子実用)			10 a 当 たり 収 量	予想収穫量 (子実用)			(参 考)	
	前年産との比較		②		前年産との比較		10 a 当 たり 平 年 収 量 ④	作 況 指 数 ⑤=②/④	
	①	対 差			対 比	対 差			対 比
	ha	ha	%	kg	t	t	%	kg	
鹿 児 島 県	5 890	90	102	430	25 300	△ 1700	94	439	98
薩 摩 半 島	1 640	60	104	433	7 100	△ 230	97	440	98
大 隅 半 島	2 840	10	100	442	12 600	△ 1100	92	449	98
熊 毛 ・ 大 島	1 170	10	101	402	4 700	△ 350	93	412	98

注：1 数値は、ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合があります。
2 表中の△は、減少したものを示します。

第3表 普通栽培における地帯別作柄概況（10月15日現在）

区 分	穂 数 の 多 少	1穂 当 たり も み 数 の 多 少	全 も み 数 の 多 少	登 熟 の 良 否	刈 取 り 期			刈 取 り 済 面 積 割 合	10a 当 たり 予 想 収 量 ①	(参 考)	
					最 盛 期	最 盛 期 の 遅 速				10a 当 たり 平 年 収 量 ②	作 況 指 数 ③=①/②
						平 年 比 較	前 年 比 較				
	(平 年 比 較)				月 日	日	日	%	kg	kg	
鹿 児 島 県	少 ない	や や 多 い	や や 少 ない	良	10. 15	1	1	52	494	492	100
薩 摩 半 島	少 ない	や や 多 い	少 ない	良	10. 12	2	1	68	470	473	99
出 水 薩 摩	少 ない	や や 多 い	や や 少 ない	や や 良	…	…	…	32	499	491	102
伊 佐 始 良	少 ない	や や 多 い	や や 少 ない	や や 良	…	…	…	48	510	512	100
大 隅 半 島	少 ない	や や 多 い	少 ない	良	10. 9	1	0	83	474	471	101

注：1 刈取り期の最盛期とは、刈取り済み面積割合が50%に達した期日です。
2 表中の「…」は、10月15日現在において、その期日に達していないことを示します。

【 参 考 】 平成22年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況（概数値）

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としています。

単位 { 重量割合：%
平均対差：ポイント

区 分	合 計	ふ る い 目 幅					
		2.00mm	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm
水 稻 合 計 重 量 割 合	100.0	80.0	14.2	2.5	1.6	1.1	0.6
平 均 対 差		17.8	△ 11.4	△ 3.0	△ 1.7	△ 0.9	△ 0.8
早 期 水 稻 重 量 割 合	100.0	70.8	22.1	3.2	1.9	1.2	0.8
平 均 対 差		12.9	△ 6.4	△ 3.3	△ 1.8	△ 0.8	△ 0.6
普 通 水 稻 重 量 割 合	100.0	83.6	11.2	2.2	1.5	1.0	0.5
平 均 対 差		20.2	△ 13.6	△ 3.0	△ 1.7	△ 1.0	△ 0.9

注：1 平均対差に用いた平均値は、直近5か年の重量割合の平均値です。
2 未熟粒・被害粒等の混入が多く、農産物規格規程三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいます。
3 表中の「△」は、平均より少ないことを示します。

【調査の仕様】

- 1 本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び水稲調査の中の予想収穫量調査として実施し、水稲の作付面積、作柄状況・予想収穫量を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農林水産行政推進のための資料とすることを目的としています。
- 2 作柄概況の地帯別は、主要作付地帯(1,000ha以上)を掲載しています。
- 3 作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり(予想)収量の比率です。
- 4 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの(WCS用稲、わら専用稲等を含む)のほか、飼料用米、バイオ燃料用米などです。
- 5 新規需要米とは、国内主食用米及び加工用米以外の米穀です。
- 6 第3表において、「穂数の多少」「1穂当たりもみ数の多少」「全もみ数の多少」「登熟の良否」で用いた表示区分は、各指標の平年値に対する比率を次のとおりの区分で表したものです。

多 少 (良否)	少 ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

- 7 本速報で用いた地帯区分は、次のとおりです。
 薩摩半島 — 鹿児島市、枕崎市、指宿市、日置市、いちき串木野市
 南さつま市、南九州市、鹿児島郡
 出水薩摩 — 阿久根市、出水市、薩摩川内市、薩摩郡、出水郡
 伊佐始良 — 霧島市、伊佐市、始良市、始良郡
 大隅半島 — 鹿屋市、垂水市、曾於市、志布志市、曾於郡、肝属郡
 熊毛・大島 — 西之表市、奄美市、熊毛郡、大島郡

- 8 統計数値のラウンド方法は、次のとおりです

原数	7けた以上 (100万)	6けた (10万)	5けた (万)	4けた (1000)	3けた (100)
ラウンドするけた(下から)	3けた	2けた		1けた	ラウンドしない
例					
ラウンドする前(原数)	1 234 567	123 456	12 345	1 234	123
ラウンドした数値(統計数値)	1 235 000	123 500	12 300	1 230	123

- 9 利用上の注意

本調査(10月15日現在)は、収穫を終えた地域では刈取り実測により行っていますが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数、登熟状況等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行っています。

したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。

- 10 その他

本調査についての確定値は、「平成22年産水陸稲の収穫量」として12月上旬に公表する予定です。

【関連リンク】

農林水産政策関連ページ <http://www.maff.go.jp/j/kanbo/>
 食料政策関係ページ <http://www.maff.go.jp/j/soushoku/>
 農業生産振興関係ページ <http://www.maff.go.jp/j/seisan/>

問い合わせ先

◎本統計調査結果について

連絡先：九州農政局鹿児島農政事務所統計部
 生産流通消費統計課 生産流通消費統計係
 電話：(直通) 099(222)7546
 F A X : 099(224)1501

◎農林水産統計全般について

連絡先：九州農政局鹿児島農政事務所統計部
 統計企画課 企画・分析係
 電話：(直通) 099(222)7538
 F A X : 099(224)1501